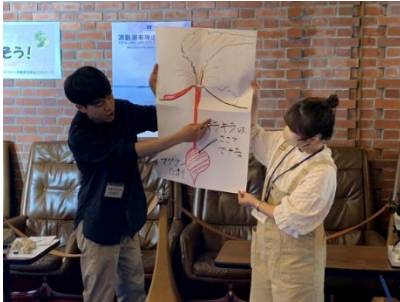


『北海道ジオパークまつり 2023』に出展しました！



北翔大学の学生さんが火山の仕組みを説明



砂の中から石英を探します



顕微鏡を初めて使う参加者も！



顕微鏡でみた石英の粒。

提供：北翔大学横山光教授

令和5年7月24・25日、北海道博物館（札幌市）において、北海道のジオパーク6地域と、ジオパークを目指す1地域が集まり『北海道ジオパークまつり 2023』が開催されました。

各地のジオパークの特徴を理科実験や創作活動を通して子どもたちに伝え、ジオパークに興味をもってもらうためのイベントです。アポイ岳ジオパークの「万華鏡づくり」、三笠ジオパークの「化石レプリカストラップ作り」等、それぞれ工夫された体験ブースが並びました。

洞爺湖有珠山ジオパークのブースでは「火山の砂から宝石を探そう！」と題し、大昔の火山噴出物の中に含まれる石英の粒を探す体験をしてもらいました。

完全予約制でしたが、洞爺湖有珠山ジオパークのブースだけでも80名の子どもたちが参加し、火山の仕組みや石英の作り方を学んだ後、それぞれ砂の中から石英の粒を探しました。

中には、黄色い粒を見つけたり、角閃石（かくせんせき）という鉱物を発見した参加者もいて、顕微鏡のコーナーからは歓声があがっていました。

石英（せきえい）ってなに？

石英は、マグマが冷えたときにできる鉱物の一種。とても硬くて割れにくいのが特徴です。大きな結晶を水晶といいます。水晶の大きなものは宝石として扱われますし、小さくないものもガラスの材料や電化製品の材料として使われる、身近な鉱物です。

できて間もない結晶は無色透明の物が多く、数千年、数万年たつと、灰色から黒に近い色へと変化します。わずかな成分の違いで、白、桃色、黄色っぽい色になることもあります。

地球の長い歴史の中では、洞爺湖有珠山ジオパークの火山活動は新しいほうで、石英もほとんどが無色透明、角や面がはっきり観察できる粒でした。

身近な土や砂でも、よく観察すると面白いものが見つかるかもしれません。夏休みの自由研究にもおすすめです。